

都道府県・指定都市番号	34	都道府県・指定都市名	広島県	研究課題番号・校種名	3 (4)・高等学校
				領域名	E S D
研究課題	<b>学校全体で取り組む課題</b> (4) E S Dを学校全体で体系的に推進するための教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名 (生徒数)	くれしりつくれこうとうがっこう 呉市立呉高等学校 (478 人)				
所在地 (電話番号)	広島県呉市阿賀中央 5-13-56 (0823-72-5577)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.kure-city.jp/~kurek/				
研究のキーワード	「つながりを意識した教育内容の構築」「E S D全体計画」「防災プロジェクト学習」				
研究結果のポイント	○「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」の指導内容を E S Dの視点で捉え直すことで，各学習活動に持続可能な社会の構築（地域課題の解決）という共通の目標を与え，3 年間の系統的な課題発見・解決学習の構築に努めた。 ○生徒に身に付けさせるべき力を明確にして，教師と生徒が目的を共有して学習に取り組む体制ができつつある。 ○地域の教育力を活用することによって，生徒が社会と自己とのつながりを意識し，自分たちの取組を地域へ生かそうという意欲が高まった。 ○次年度，E S D全体計画を作成するに当たり，それぞれの学習活動の内容や実施時期の有効性について検証するとともに，教材，人，能力・態度のつながりについて，各教科や学校全体で熟議する必要性が確認された。				

## 1 研究主題等

### (1) 研究主題

持続可能な地域社会の構築のために行動できる人材の育成  
 - E S Dの視点を取り入れた課題発見・解決学習を通して，呉市の現在と未来を考える -

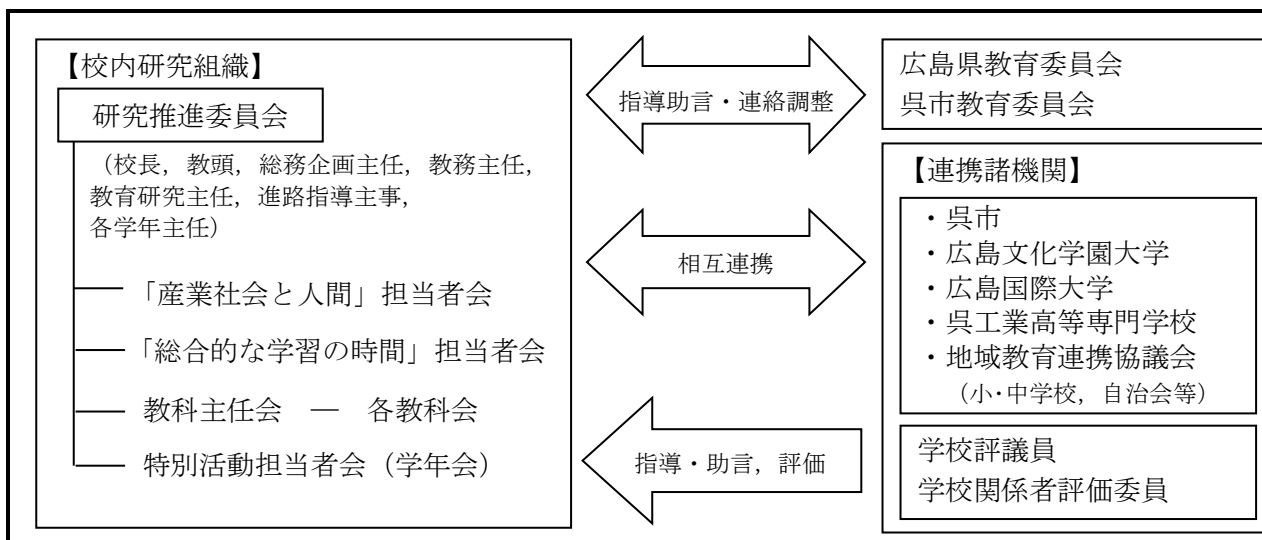
### (2) 研究主題設定の理由

本校は，呉市唯一の市立高校として，郷土を愛し郷土の未来を切り拓く心豊かでたくましい人材を育成するため，総合学科の特長を生かし，生徒の個性を生かした主体的な学習や将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を重視している。

生徒は，「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」の学習を通して，自己の適性を理解し，将来の自己の在り方生き方を考えるとともに，主体的・継続的に学習する姿勢と探学的・創造的な態度を養い，自ら課題を発見し，自ら学び，考え，よりよく課題を解決するための資質や能力を身に付けようとしている。また，多くの生徒が，他者や地域に貢献したいという気持ちを持ち，ボランティア活動も積極的に行っているが，地域が抱える課題の解決に向けて，具体的な一歩を踏み出すには至っていない。

E S Dの視点を取り入れた課題発見・解決学習を，地域課題の解決を目指したキャリア教育として展開することで，学ぶことの意義を社会と自己との関わりや日常的な文脈の中で認識させるとともに，地域課題解決のための提言と実践への動きを生み出すことで，自立と社会貢献を目指す生徒を育てたい。

### (3) 研究体制



### (4) 1年目の主な取組

平成29年度	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議（実施計画書を教員間で共有）</li> <li>「産業社会と人間（1年次）」におけるESDについてのガイダンス</li> </ul>
	5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究推進委員会①（講演会に向けた事前協議）</li> <li>ESD校内研修会①（国研調査官による講演会）</li> <li>サテライト研修（ICTを活用した授業づくりの研修）</li> </ul>
	6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業交流週間（他教科の授業見学交流）</li> <li>「総合的な学習の時間（3年次・卒業研究）」中間発表</li> </ul>
	7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究推進委員会②（「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の年間計画見直し）</li> <li>研究推進委員会③（ESD意識調査結果分析）</li> </ul>
	8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>呉市防災センター研修（2年次）</li> </ul>
	9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ESD校内研修会②（1学期の振り返りと改善計画）</li> <li>防災をテーマとしたプロジェクト学習の開始（2年次）</li> </ul>
	10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校設定科「防災」選択者による、地域防災訓練の実施計画の策定・実施（地域教育連携協議会との連携）</li> </ul>
	11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業研究（3年次）成果発表会の開催（大学・学校評議員・学校関係者評価委員との連携）</li> </ul>
	12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究推進委員会④（ESD意識調査結果の分析）</li> <li>ESD校内研修会③（これまでの振り返り）</li> </ul>
	1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究推進委員会⑤（ESD意識調査結果の分析）</li> <li>ESD校内研修会④（ESD全体計画の策定に向けて）</li> </ul>
	2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ESD校内研修会⑤（大学教授による講演会）</li> <li>ライフプラン発表会（1年次）</li> </ul>
	3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>成果発表会（大学・学校評議員・学校関係者評価委員）</li> </ul>

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

- 「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」の指導内容をESDの視点で捉え直すことで、各学習活動に持続可能な社会の構築（地域課題の解決）という共通の目標を与え、3年間の系統的な課題発見・解決学習の構築に努めた。
- 地域の教育力を活用して活動の充実を図るとともに、地域課題解決のための提言を行い実践した。

## (2) 具体的な研究活動

### ア「産業社会と人間」

#### ○企業訪問

呉市の歴史・文化・産業を支えグローバルに活躍する企業・オンリーワン企業・施設等を訪問し、企業等の社会的役割や勤労の大切さ・意義について理解するとともに、企業等が持続可能な社会の実現に向けて、どのような取組を進めているのかを、実際の現場で学ばせ、その成果を文化祭で展示発表した。

#### ○ディベート

情報収集力、多面的・総合的に考える力、批判的思考力、コミュニケーション力を高めるためにディベートを行った。前年度に比べて、地域産業を取り巻く課題や生徒にとってより身近なテーマを取り上げることで、学ぶことの意義や社会と自己との関わりを強く意識できる内容とした。

### イ「総合的な学習の時間」

#### ○2年次「フロンティアⅠ」における防災プロジェクト学習

地域防災の在り方を考えるとともに、課題発見・解決のためのスキルを身に付けさせるためのプロジェクト学習を実施した。課題発見・解決に必要な8つの力（聞く力・課題発見力・情報収集力・情報整理力・読む力・データ分析力・書く力・プレゼンテーション力）を身に付けさせるため、①防災講演会、②呉市防災センター研修、③自然災害発生のメカニズム学習、④災害レポートの作成、⑤地域防災の基本的な考え方の確認、⑥防災意識アンケートの作成・実施・分析、⑦プロジェクト学習レポート作成 に取り組んだ。

防災意識アンケートの作成に当たっては、生徒の拡散的思考や収束的思考を促すために、イメージマップの作成やKJ法によるグループ討議を行った。また、各クラス2名ずつのプロジェクトリーダーを選出して、呉市危機管理課との話し合いを通してアンケート項目の絞り込みを行った。

#### ○3年次「フロンティアⅡ」における卒業研究

今年度は、ESDにおける課題を見いだすための6つの視点に基づいて、卒業研究のテーマ（課題）を掘り下げ、それを解決するための探究活動を通して、社会と自己との関わりを深く意識させる取組を行った。

### ウ 学校設定科目「防災」選択者による、地域防災訓練の実施計画の策定・実施

「防災」選択者は、毎年実施されている地域防災訓練の在り方を地域課題として取り上げ、ESDの視点から見直しを図った。まず、呉市危機管理課、呉市消防局及び呉市防災アドバイザー等の協力を得て講義や実習を行い、自然災害や防災に関する知識を学んだ。それを生かして地域防災訓練の改善策を考え、訓練の実施主体である地域教育連携協議会（アガデミア）に対し提言を行った。

訓練当日には、「防災」選択者が全校生徒に対して訓練の意義を説明したり、避難誘導を行ったりなど校内の防災リーダーとしての役割を果たした。

## (3) PDCAサイクルへの取組について

- ・1学期末のESD意識調査結果を基に、全教職員で生徒に身に付けさせたいコンピテンシー（資質・能力）について意見を出し合った。1年次は「社会の事象に関心を持つ」「自己を客観的に把握する力」「進んで参加する態度」、2年次は「課題発見力」「情報整理・分析力」

「研究方法を身に付ける」、3年次は「多面的・総合的に考える力」「意見をまとめ伝える力」「批判的に考え質問したり意見したりする力」「見通しを持って計画する力」などに意見集約することができた。これらの意見を基に、2学期の学習内容を組み立て実施した。

- ・2学期末のESD意識調査では、本校の重点項目である「身の回りの出来事を様々な側面や立場から考えている」の肯定的評価が、1・2年次においては微増し、3年次においては横ばいであった（1年次：85.1%→87.6%，2年次：91.2%→93.7%，3年次：92.4%→92.3%）。また、2年次を対象に、1月にプロジェクト学習の振り返りを行った。生徒の記述から、学習に対する意識や意欲の高まりを読み取ることができた。今後、3学期の意識調査の結果・分析を踏まえて、次年度の取組に反映させる予定である。

### 3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 生徒に、ESDにおける課題を見いだすための6つの視点を意識させた上で、企業訪問を行わせたことによって、企業の社会的役割や持続可能な社会の実現に向けた取組について理解が深まった。このことは、企業訪問の内容をまとめた文化祭での展示に現れており、来校された企業の方から「自社の理念がわかりやすくまとめている」「自分たちが努力してきたことをよく理解してくれている」といった評価を得ることができた。【2（2）ア】
- 防災プロジェクト学習において、アンケート結果を分析する際に、グループによって分析の切り口が異なっていた。他のグループの発表を聞くことによって、生徒は様々な視点があることに気付くことができた。また、アンケート項目を考えることからデータの収集・分析・まとめまで、すべて生徒自身が行うことによって、主体的に課題に取り組む態度が生まれた。【2（2）イ】
- 学校設定科目「防災」では、地域の教育力を生かして学習したことを基に、生徒がグループごとに地域防災訓練の在り方について議論を深めることができた。さらに、そこで出された改善策を地域教育連携協議会の場で発表し、大学や高等専門学校の方から意見をいただくことができた。生徒の提案は、実際に避難経路を変えるなど、防災訓練の取組に反映された。【2（2）ウ】
- 3年次の「総合的な学習の時間」（卒業研究）において、研究のためのスキルが不十分な生徒が少なくないという実態から、今後「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」が有機的につながるような学習内容の配置を考えるとともに、それらを柱として、各教科や特別活動の内容をリンクさせる必要がある。【2（2）イ】
- 取組を進めながらの研究活動となり、本校の教育活動におけるESDの位置付けや指導方針、指導内容が十分に浸透しきれず、学校全体をあげての取組とはならなかった。研究推進委員会において十分な議論を行い明確な研究の方向性を提示するとともに、教材、人、能力・態度のつながり等について学年会や担当者会、教科会で熟議を行う必要がある。

### 4 今後の取組

- 1年間の取組を振り返り、各学年で生徒に身に付けさせたい資質・能力について議論を深め、指導方針・指導内容の改善を図る。
- 「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」を核とした3年間の系統的な課題発見・解決学習を構築するとともに、各教科や特別活動とのつながりを考えたESD全体計画を作成しカリキュラムマップの策定につなげる。